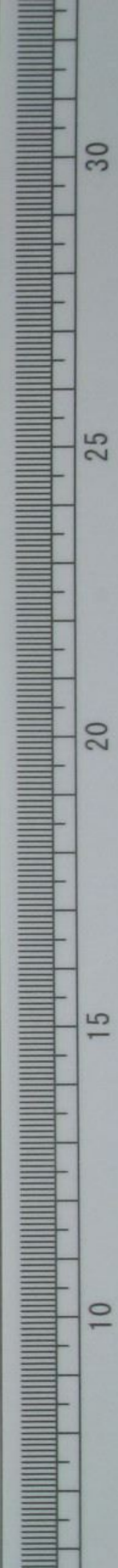




新刊
州
二
ナリヌラヲカ

十武
435
2



和漢三才圖會

平住專庵著 全八十一冊

全八十一冊

唐本經解内編刻
前後合册

徂徠先生國字讀

物茂御述 全

春秋正月考

唐本經解内編刻
前後合册

辨復古

養齋先生著 全

南秋江鬼神論

全

冷齋夜話

津逮秘各翻刻也 全

萬物故事要畧

全八冊

世ニアラユルノ來歴ヲ記虚ヲ糾ツソノ
疑シキヲ改メ要樞ヲ決斷セシ書ナリ

四書白文

全五冊

ナ字大儒校正ニ本以止極ニ類ヲレ與ニ字
忘レタル字アレハ則チナリ見レニ甚便利ニア
御坐之間大文字古文字屋板下御尋御求可被下
海内是ノ好本ニ御坐ノ

學山錄

蘭林先生著 全六冊

天地事物言論行事藝文變異文緯稊謂字
義亦部ヲ分チ類ヲ集メ典故事實ヲ記ス此存ヲ見
ル時ハ數万卷ノ書ヲ見ル如ク博學ニ至ル書也

弁道漫錄

全

異端ヲ弁明シ儒門ノ正路ヲ闡キ其學ヲ發明ス
和漢ノ高論ナリ

ちりぬるをわか二目錄

ちりの部

○ 赤腫痛て死せんとするを治す法ナリ

○ 又言 同

○ 同傳系 同ウ

○ 赤と治する妙方 同

○ 同 十三丁ナリ

○ 同 同

武 9
43ナ
巻 2

○ 中風の茶

同ウ

○ 同

名方 潤體園

同

○ 同

龍虎丹

十四丁メウ

○ 中風秘灸

十五丁メウ

○ 痔并よ脱肛の妙茶

同

○ 又方

十六丁メウ

○ 同

同

○ 痔の内茶

同ウ

○ 同法茶 二方

同

○ 痔の茶 秘法

十七丁メウ

○ 同法茶

同

○ 又方

同ウ

○ 又方

同

○ 又方 小瘻よもう

十八丁メウ

○ 又方

同ウ

○ 又方

同

○ 又方 一 聖濟 二 一

十九丁メヲ

○ 血止 一 疝菜

同

○ 同

同

○ 同

同

○ 血止 一 紙

白濁腎が千金錠

二十丁メヲ

○ 血止 一 大 秘傳方洗菜

同ウ

○ 血止 一 肉菜

同

○ 血止 一 妙菜

二十丁メヲ

○ 血 一 鼠の秘事

同

○ 同

同ウ

○ 菜 一 花 附子 速血を止る法

同

○ 同法

同

○ 乳 一 腫 抱 此菜

同

○ 同 一 乳 癰 二 一

二十丁メヲ

○ 又 一 方

同

○ 乳 一 癰 一 妙菜

同

○ 乳腫相茶

同

○ 同

同

○ 同

同

○ 同

同

○ 乳の頸より血かて止るるを治すホ三テ

○ 乳やぶれさけるるを治す

同

○ 乳の出ざるを治す

同

○ 乳と出す法

同ウ

○ 乳の出る茶

同

○ 同

ホ四丁メラ

○ 大脹満を治す

同

○ 脹満治方

同ウ

○ りの部

○ 淋病此茶

一切の淋病百言驗ホ五丁ウ
あつぎりを治す

○ 同方

同

○ 同方

同

○ 同方

同

○ 同方

同

○ 同秘方

七六丁メヲ

○ 同方

同

○ 同方

同ウ

○ 男女淋病を治す

同

○ 同方

七七丁メヲ

○ 同方

同

○ 痢病茶

同

○ 同

同

○ 同

同

○ 同

同

赤白とも治す

○ 同

七八丁メヲ

○ 他 痢病七八夜もより 同ウ
州 念 敷 茶 後より用て止し

○ 赤白の痢を止る一粒丸

同

○ 赤白痢妙茶

七九丁メヲ

○ 劑病を煩くハざる法 卅九丁メウ

○ 劑病の妙薬 同

〽 〽 の部 卅丁メウ

○ 瘰癧を治す 卅丁メウ

〽 〽 の部 同

○ 瘰癧の妙薬 同

○ 瘰癧を落す薬 同ウ

○ 一切の瘰癧截薬 同
いんかおろりよても
落すとよりるまー

○ 瘰癧落兼る妙薬 卅丁メウ

○ 瘰癧薬 同

○ 同方 同

○ 同方 同

○ 同方 同

○ 同方 卅丁メウ

○ 瘰癧截薬 同
家傳斬鬼丹

○ 瘰癧疾截薬此代よ用る方 同

○ 魔死おそのれつるを治法 卍三丁メヲ

○ 驚おどろておと音いご家かを治する方同

○ 魔死まつるを治す 同

○ 又方 同ウ

○ 面おもてを爪つめよて抗破きやぶつるを治す同ウ

○ 補養とぎの薬 同

△ 腕うでの節

○ 腕うでの妙方 卍四丁メヲ

○ 同 同

○ 同 同

○ 同 卍五丁メヲ

○ 同 同

○ 同 同ウ

○ 右瘰癧いへ薬 同ウ

○ 腋わき臭くさ早くはや取とる法 卍六丁メヲ

○ 同 同

○ 同

同ウ

○ 同

同

○ 草鞋喰乃茶

卍七丁メヲ

○ 脇煩子痛屈伸なりがさきと治す 同ウ

○ 黄疽の茶

同

○ 小兒黄疽茶

卍七丁メヲ

○ 黄疽の茶 遍身金色の如く黄なるを治す 同

かの部

○ 髪白くならずる茶

同ウ

○ 髪白くならずる茶

同ウ

○ 髪ぬけ痛き所又禿るる茶

同

○ 髪ぬけ痛て澤あさを治す

同

○ 髪の色つらきと治す

同

○ 髪を長く光澤をよくする法

卍七丁メヲ

○ 髪の色つらきと治す

同

○ 頭の疵痕を毛を生ずる茶

同

○ 顔 うがふど突 つき腫 はれつるよ菜 同ウ

○ 顔 うが面 がよ腫 しむ出 いて癩 かの付 かつるを治 ちす同

○ 臍 か壇 いの妙 ま菜 同

○ 同 同 四十一丁メ

○ 同 秘傳各方 同

○ 臍 かの養 や生 う菜 同

○ 同 同 同ウ

○ 同 同 同

○ 百 か瘡 さ 并 なくとも もろ 同 四十一丁メ

○ 瘡 か毒 どく菜 同

○ 反 か花 は瘡 さト 同

○ 瘡 か毒 どくの菜 同

○ 平 ひ里 さと流 りゅう瘡 さ菜 同 四十三丁メ

○ 瘡 か同 どう菜 上 かみは用 もちる方 同 四十五丁メ

○ 同 下 したは用 もちる方 同

○ 同 鼻 び菜 同ウ

○ 瘰癧の嗅薬

四寸メヲ

○ 瘰癧後骨疼此妙薬

同ウ

○ 同薬

四寸メヲ

○ 楊梅瘰癧此薬

同ウ

○ 同

四寸メヲ

○ 同洗薬

同

○ 同付薬

同ウ

○ 楊梅瘰癧息瘰癧付薬

同

○ 同 戒煙秘薬

同

○ 骨疼盜汗なき人は用る方

同

○ 何瘰癧てもくうりくゑる時檢つくる薬 痔下

○ 楊梅瘰癧大巨瘰癧妙薬

同

○ 楊梅瘰癧下疳瘰癧の餘毒よふ強あり方 同ウ

○ 同

同

○ 瘰癧付薬 他一裏へ入る

五寸メヲ

○ 瘰癧よて聾よかふるを治す

同ウ

○ 鷹瘡此藥 あぐさ類を治する 同ウ

○ 脚氣風毒腫 あせ よよー 五丁メヲ

○ 脚氣散 あせ かつけの薬 同

○ 脚氣貼薬 あせ うづくよよー 同

○ 同 同ウ

○ 同 同

○ 同丹薬 あせ 初ハ傷を治すくよよー 五丁メヲ

○ 同腫痛と治す 同

○ 吸のくひするよ薬 同

○ 秘傳蚊遣丸 同ウ

○ 神仙膏 あせ 一切の瘡悪肉を治す 同

○ 寒を凌良方 五丁メヲ

○ 寒氣を碎方 同

へりの部

○赤腫痛て死せんとするを治す

藤井呂求子見隆 纂輯
長岡恭齋丹堂 校正

一 菊葉きくのはを握搗よぎりつぎて汁じゅうと絞あがり口くちよ入いせすハ即すま効いく
冬葉ふゆのはをかき附つハ根ねを用もちべー。此方このかた極たぎて効いあり

○又方

一 瑞牛たんのこの日ひ稀ゆか艾あと丸まる陰干かげがーして細末さいまつ。酒さけまで服くすれば汗あせ出て愈いむ。或あるハ乳香にゅうかう生せいか



白礬びやくらんの細末さいまつ一匙いちし好酒こうしゆ一盃いちはいよて在れめあもこ
 と服すとくす冷水れいすゐ腥魚せいぎよ類るいを長ながべー
按ニ柿蕨陰于急ニ無之トキハ新キ生葉ヲ直ニ搗汁
 フレボリ出シテ用ルモモ好

○同傳茶

一白蘆ひやくれんを細末さいまつ一水すゐよて解とき傳つる

○疔ちやうを治ちやうすり妙方

一白蛇びやくだ三酒よ楊杞皮やうきひ六香辰砂てんさモ香
 右粉みよ一熊膽くまのいとろよて解とき煉ねりて付つべー。

肉茶にくぢやハ敷毒散ふくどくさんよ薄荷はふた連翹れんきやう玄参げんじんと
 加へ用もちべー

○同

一桑螵蛸そうびやうしやうほうその末まつよあるありひ乾栲杞肉けんかうきにくよて作り
 付つけ腫拍膿しゆはくのううるよハ汁じゆと刺さして右の茶ぢやよ
 齎う金こふか朱しゆ加へて付つべー

○同

一蒼葱のびる乾白梅ひめがしの肉にくよて作り付つべー

○中風の薬

一桑本ののりまらご

枸杞の實

人参

沉香

各五分

柿葉

甘草

一各細末一酒よて丸一用也

○同

一潤體圓

防風

竜腦

乳香

羚羊角

香附子

白檀

蚕屎

栝榔子

肉豆蔻

沉香

茯苓子

丁香

蔓荆子

牛黄

麻黄

犀角

雄黄

麝香

本香

辰砂 各五分

茯苓

羌活

人参

白附子

原蚕蛾

肉桂

川芎

各五分

真珠

獨活

全蝎

枳殼

烏次

白花蛇

天麻 各五分

琥珀

白豆蔻

金薄

六十枚

右末して竜腦以下別はすりたり

乳餅よて

指蜜丸よして各五分と一粒一此二より四十

までの人よハハ粒六十歳内外の人よハハ粒
 荊芥の煎湯よて服す
 一中風も是不煩精神昏眩蹇澁
 口眼喎斜筋牽引骨節痛頭重
 眩暈万よよー

○同

一龍虎丹

破胡紙 物 霍香 天麻 牛膝酒よ
 硫黃 半匙 天竺黃 細辛

附子	何首烏	羌活	獨活
柴胡	川芎	桔梗	各廿五
寒多石	茴香	木松	肉桂
玄靈脂	香白芷	藜蘆	烏次
白檀	白姜蚕	漏砂	牙硝
木香	雄黃	麝香	地龍
于姜	茯苓子	朱砂	防風
烏蛇	八五		

右末して蜜よて丸一荷の湯よてかきこへ

眼に男女中風軟弱不仁して足筋衰へ
少少は瘰癧を頭鱗の如く或ハ汁よてさす
如くなると万よ一

○中風秘灸

一月頭々こよ足乃大指の尻と取と乃際よ皮
肉半分爪を分うけ三穴つ灸すべ一
よ是
よびちんあらば必ずすす入る

○痔 兼は脱肛の妙薬

一草麻子を粘よ押ませ爪の百念よ張るべ一

忽引入なり

○又方

一田螺の肉を焙粉よして白糖少許へ
唾よて封べ一

○同

一蛇骨 高 同 川 燧 同

耳白貝 日 黄牛乃糞 同

右慈贍よてつくねのこめ蜜穴痔よハ胡麻
の油よて封べ一。万此痔よよ一

○痔の円末

痔下血持病の人ハ多クハ概々ト

一艾葉一把握と熟ぶ一烏梅三ツ核を去り寅の

の刻井の水二斗い入煎ド七分こして服す

○又蒼朮二五皂角一五細末一水

糊して丸し空心温酒にて服すへ

按蒼朮ハ湿ヲ行シ地榆ハ血ヲ涼シ皂角ハ風ヲ去。酒ヲ以て行之最妙也

○同洗菜

一枸杞根搗爛し煮て薰洗すべし。忽痛と止して治すること妙なり

○同

一痔下血の人ハ鯉魚の鱗生姜蒸韭を

性を任て食すべし。瘡も也奇効彙編

○痔の菜 物秘法

一黄芩雄黄各白粉一古細末一胡麻

油にて解胃ハ陰囊を付女ハ乳房を付し

○痔洗菜

一桐の木乃齧屑骨四指目人參下沉香を分す

葱中ら一番ハ多四味入水中ニ煮す二煎す

○又方

一朱ニ分 白粉ニ分 阿仙菜ニ分 黑燒ニ分

沉香ニ分 胆礬焼 魁蛤ニ分 黑燒ニ分

右胡麻油ニ分 以て解鳥のねニ分 以てひき炭火ニ分

よてあぶる

○又方

一蝙蝠ニ分 を黑燒ニ分 以てニ分 以てニ分 用也ニ分

又竹葉ニ分 以てニ分 黑砂ニ分 以てニ分 入火ニ分 以てニ分

右の黒燒ニ分 をニ分 以てニ分 入痔ニ分 以てニ分

又あニ分 以てニ分 右ニ分 黒燒ニ分 を解ニ分 付ニ分 てニ分

○又方

一梭ニ分 欄ニ分 の皮ニ分 焦燒ニ分 以てニ分 湯ニ分 以てニ分 用也ニ分

○血止ニ分 疝菜ニ分

一貝ニ分 合散ニ分

田螺ニ分 川蝸ニ分 贏ニ分 二味ニ分 以てニ分 用也ニ分

右粉ニ分 以てニ分 付ニ分 べニ分 以てニ分 妙ニ分 なり

○血止ニ分

一株ニ分 棠ニ分 の花ニ分 をニ分 叩ニ分 げニ分 以てニ分 粉ニ分 以てニ分 用也ニ分

まぬる湯よてうす茶とふいごと用由一

○同

一 麒麟竭 其まき 龍骨 其まき 各まき

唯松の緑三月の末よそりかけが一 鶏冠血

武分右稠合して細末一 茅花穂とそり

て綿のやうよして右の粉茶を捻りうけひと

と付。其よとを綿よて巻いて密なり

○又方

一 龍氣れうとあけ腸とそりすて紅花と

へて黒焼よ一。右のよ置べ一血止りうぬ

附ハ炒うろ蒲黄は雲裡 白芍薬三味薬

て右の薬と茶一うやどふへくと止なり

○ 呂洞賢が千金錠とら血止紙の方

一 麒麟竭 本乃伴 黄丹 中

一 本葉大

右四色を濃煎一を書の紙とわ

べんも色れ付粉とめかけがよ一て懐中

一 血止よ用由

○血止大秘傳方洗菜

一 麒麟竭 其味 二十

一 紫梗 日

一 熟地黄 其味 二十

揚梅皮 其味 二十

萍蓬 其味 二十

袋河車 其味 二十

象牙 其味 二十

辰砂 其味 二十

海蝶蛸 其味 二十

白飯 其味 二十

ハト十味

刻之調合一貼十少づ酒にて煎煮の白

と洗入べしなまかど深煎煮てもくさるる
なく血と止痛と止るる妙なり

○血止内菜

一 櫻の葉

一 檀の木

一 芍薬

右 白湯よて月由

○血止め菜

一 鴻の胆

一 椋木の毛

一 各芍薬

右 粉よして捻りくべし

○血止め秘率

一 入血よハ畢丸とくり何血止菜よても酒の
中へ入あことろり。其中よ赤心杖原よしめし
て又よりのかくべし ぬるなり

○同

一 切茶とり入茶とわげがー粉よーうらうく
べー。肉菜よも酒よて粉也べー

○ 素を乳附子迷血と止る法

一 笹とりて付へー即止るなり

○同法

一 紙を八川よ折てあてふにてとら也べー止る
り奇効なり

○ 乳腫抱れ菜

右よくくすり合てそく飯がー梅子カ
破よて付べー

○ 乳の頭より血かて止るを治す

一 蒼朮 麝香 二味考分

末して付べー血乾よ止る愈

○ 乳やぶれさけつるを治す

一 紅花 蚕屎

右粉よして付べー妙なり

○ 乳の出るを治す

一 絲丸と黒焼よー白湯よて用ゆなり

○ 乳と出す法

一 白強蚕 是を味粉よー酒よて用

一 服よて出さう時ハ二三少くも四又服も用也

一 扱寝さまよ 扱よ油と付寝させとろく

と 扱とすくべー。毎夜かくのごとくすべし

大笑 怒をいむ

○ 乳のつる茶

一 天竺粉中 赤小豆小 苺飯大

右粉よー茶茶よかへてーきりよ用也

○ 同

一 杜仲 黒焼 細末ー醴よて用ゆべー

○ 大脹満を治す

一 よき乳 若し 新ともよ豆粒の大きよ丸め

麴よつと一沸煮して空心よ七粒用也

べー 粉用也れハ午の刻よあり水を半出

二日のるよあ 餅 お。大よ瘦く瘰二奉

の中 賦 油とく入るべ

○脹滿治方

一切脾胃虚して脹滿とあるは雄黄
 明礬各二兩細よ研二貼よして一貼
 づ麩糊よてねり合せ厚紙の上よ攤
 脹る處へ貼べし即効ありは茶を貼
 て後大便自膿のごとくよあるものなり
 これ愈る志るしなり

△の部

○淋病此茶 一切の淋病百方驗あり

痢病はの効芳へ合すべし

一 蕪欬葉 中

葶苈仁 ナ

肉桂 小

槲葉 大

枇杷葉 小

葉のうら毛を去

耳茶 小 考のごとく煎ど用也

○同方

一 志ろあざみれ糸を揉陰がしよして
 刻つものごとく煮用也べし奇妙なり

○同方

一 鶏の糞 男よハ雄 女よハ雌 右濃よて用也

○同方

一 虎杖根 取茶 本通 各五分
煎 用おべし 妙なり

○ 同方

一 酸将水 茶を丸く洗ひ絞る汁一合
よ酒一合攪 空心よ過り服す 能通する

○ 同

一 牛膝 大 芍薬 中 丁子 中

薰陸 小 黄蘗 小 川芎 中

檳榔子 中 胡椒 小 沉香 小

人参 少 大黃 少 甘草 少

右 煎 服す 按此方冬淋不止陰虛有濕者可用熱淋二平二用ユカラス

○ 同秘方

一 檨 煎 各五分 せん 男也

ひ茶加減してハ山海來のかろりをすするなり。
黄芩と連翹と其茶少と加れハ小瘡

よよし

○ 同

一 蜀黍 煎 酸将水をつぶし其汁よて

・是不どよ丸一、み粒つ、日よ二夜用也

右香汁知母、本通、黄柏

其茶、是と二包よ合て煮して用也

べー、按ニ此方冷淋ニ用ユベカラズ

○同方

一燕と味噌よて煮、食す

○男女淋病を治す

一車あふ、黑豆、麻の角、山菜

右末して、是不どよ、薯蕷よて丸一、用也

日と種つらよハ二七日も三七日も用

○同方

一茗荷の白根、土氣をすり、能あつひ刻三日

よ于用也。法茶よて強なきを治す

○同方

一表虎杖のよ根とすり、煮用也

○痢病茶

一雀籠中よ塩よ漬をき、味着汁よて

用也べー、奇妙なり

○同
一 串 栳かきと味噌汁みそじゆよて煮ゆし食くし妙たふなり

○同

一 白 槿しろひくけ花け陰かげ干がしして玄えん。痢り病びやうの時とき味噌汁みそじゆよて煮ゆて用もちて妙たふなり

○同 赤白ともよ治す

一 極上の茶 拾しゆ生せい姜きやう皮あひともよ 搗たふ合あせ細こよ

して濃煎こいせんトとる茶ちやよて服くす二三夜用
て極たふて効あり

○同

一 参さん香湯かうたう

嬰い粟ぼ

陳ちん皮い

厚こう朴はく

薑きやう皮い

干かん姜きやう

耳かん草そう 各おホろ

右みぎ搯まして赤あか痢りよハ耳かん草そうの葱湯せんたうよて用もち也。
白しろ痢りよハ紫むらさ蘇その葱湯せんたうよても食くれらり
湯たうよても用もち也。冷ひやて下くだるよハ胡こ椒しやうの湯たうよ玄えん
て与あへべ。熱ねつあつて干かんよハ新あよ汲くる
あよて与あへ妙たふなり

○ 州 倉敷茶 痢病七八夜もより方
後より用くよ

一 桑此虫糞 十五粒 乾て茶研 痢症栗の汁

一 黄柏 ぬ目よめさす 遠茶のうすきかとか付用也

一 山梔子 火ツ六ツ割あり浸し袋よ入絞り汁と用

右 椽子かどよ丸 衣よ八右野葛とすり

○ 赤白の痢と止る一粒丸
一 胡椒 七粒 干姜 五粒 巴豆 二粒 他と云

右 三をと粉よ丸 一て丹を衣よ 一食の
より湯よて用也 べー 一と一粒よて止るる也

○ 赤白痢炒茶

一 罌子花 花房て 蒼より付 其つがよ二取も

二取もまきざと付て 其口より白き汁のより

と血よかき入て 海りよりと干切さめて一盃

一 桑木此虫原四両ありと天目 三盃入すかよ

煎一つめ又それと三分一を煉つめ 能ねなりと

る時 右此阿片と結研て 皆入て 煉ませるく

ハ葛粉と加へて 是かどよ丸ト大人小児よ限
す 弱き人ぬハ二粒 強人よハ三粒つ用 益母の

煎湯せんたうよて用て妙也抄右四方積滯ヲ疎瀝シテ後ニ用ニベシ卒ルニ始ヨリ用ニベカズ

○痢病いりびやうと煩わづらくハさるり法

一蛇蕉へびいもちとさうちんご端午たんごの目物あさつめ病あてよあてき川ああよて吞のいべし。其年いの極痢病いびやう流やりてらうす

○痢病いりびやうの妙薬

一煮ゆたり鶏卵たまごの黄きなるあとあやうごこふ一入白湯あよて用てべし

るの部

○瘰癧れいぎと治す

一烏菴苢れんが みと 甘草ニと

いまど潰つぶれらるる先え右の薬と煮せんド用てべし
敷すくよして瘰い癧ぢ

との部

○瘰癧れいぎの妙薬

一巴且杏あめんごうす きと 甘草きと

右割きざこらり日乃あ物もの子こ天てんよいまど人の汲くぎる
あよて食め梳しよ水みづ一盃いへ中ちゆう分ぶんよ煮せんドたえんべ

日中よおろりトて其赤まごよ皆用也

○瘰癧と落す菜

一 檉柳子 芍薬 川芎 白芷

麦皮 茯苓 良姜 独活 熟地黄

牛膝 各等分

右を此ごとく煮ト服す

○一切の瘰癧截菜 此がおろりよて日落す

一 辰砂 阿魏 各等分

右糊よて大豆などよ此一粒づつ茶日の乾よへ

○瘰癧兼る妙菜

る 鞭草 中 木香 中 苧茶

右つものごとく煮ト用也

○瘰癧茶

茶 本 陳皮 厚朴

甘草 芍薬 茯苓 独活 熟地黄

生薬 一片入煮ト用

○同方

一 牛膝 截菜 此二味とすり丸ト用也

六粒用白べー。千日よなる瘰も落べー

○月方

一 葶藶 牛膝
 一 茯苓 大黃
 一 人参 荊芥
 一 川芎 羌活

右つ子のどろく煮し用

○月方

一 芥子とすり其中へ稠すことありへ頭
 のをざり乃上よ付べーかけも乾く落るなり

○同方

一 薑皮 厚朴 中 白朮 中
 一 芫花 子 姜 を加へ
 右一くよてゆらず落るり乾ひな一

○瘰れ截薬

一家傳斬鬼丹

黄丹 すのぞんよくすり
三夜水乾す

獨頭大蒜 すりて泥の
かま

右等分の内黄丹とがーまー

右月六日の午れ時よ調合し後人もの

よよて丸一おろり日の入更も流ろと汲て
東向よ坐して吞べ

○瘧疾截茶の代よ用る方

一大蒜三胡椒七粒百草煎二分搗合せ一丸

一男ハた。女ハ右の曲澤穴

ノ中曲池ニ遠ク少海ニ近シ尺澤ト
ツ海トノ真中大筋ノ間脈ノツ處
よ付て縛至べ

○又瘧疾日の初東よ向ひ百合穴

入コトよ朱よて上天下都城隍在と七字を疊
書べ一落るし甚妙なり

○瘧鬼死るるを治法

一急よ木夏鬼角の粉と鼻へ吹入瘧とあし

次よ蘇香丸と身へべ

○驚て抱を言さるふを治する方

一兵礼火難盜賊或ハ猛獸と見て大驚

言候あつてハざる者あり。是驚る心包絡よ入

ゆなり。密陀僧を細末一皮よみかか

好茶よて喫ふへ一錠詰なり

○瘧鬼死るるを治す

一皂角と末一葦豆の大小のどくは。鼻の中へ吹入嚏を即氣通す

○又方

一雄黄と粉よ一管よて鼻中へ吹入べ

○面と丸よて批破里うろを治す

一生姜の絞汁よて輕粉と解傷起よ付べ

痕なく愈る也○又手足面かど批破里

膿腫痛よハ鍋墨を清油よて解傳べ

○補養菜

一七月七日よ蓮花と採九分。八月八日藕根

と丸八分 九月九日蓮肉をすり九分。各

陰乾よして細末一づつ白湯よて服す

べ。氣力と益虚と補ひ不老の仙菜也

わの部

○服臭の妙方

一麝香 式分を 竜腦 式分を 綠香 二分

明礬 二分 輕粉 二分を

右栴の研よてすり腋下をあへひて付べ

○同

一硫黄 五分

竜腦 五分

樟腦 五分

其松 五分

的礬 五分

生附子 五分

輕粉 五分

右粉よりして腋下に傳へ

○同

一粉 五分

膽礬 五分

肥松 燃燼 五分

守宮 五分

右細末より下をよく洗ひ又湯より白粉を入よくすり洗ひ付べし

○同

一香木香を厚片好硝より一夜浸し腋の下に夾へし切かかぬごとくして即ち愈

○又方

一蜜陀僧と末より生姜皮ともよく擦て解合せ頻りに腋下に塗べし自愈暑乳の瘰癧汗出る時塗ハ好

○同

一的礬 焼く 膽礬 五分 竹虫屎 三分

白粉おしろい 麻袋角あしあかしの 白しろややききよよ 靈天蓋れいてんがい 蓋まが

右粉みぎこなより一ひと硃すまきよよて煉ねり付けへ。他ほか一ひとえんえんかうかう茶ちやのの搽おし汁じゅう
よよても付つ右みぎのの粉こなよよて別わか痛いたみみ八やち日にち出で茶ちやのの汁じゅうよよて
も付つべへ。腋わきの下のの毛けをを扱ね付けへ。根ねをを絶つえんえんと思おもう
ハハ膽たん禁じんををめめししと一ひと付つ。二ふた三さん日にち並なハハ膿うみなりなり膿うみご
る時ときハハ膿うみなりなりも付つべへ。膿うみててあるあるとも二ふた三さん日にち不ふどどよ
てすす紀きとと瘡かさなりなり

○右瘡茶

一ひと麻袋角あしあかしの 靈天蓋れいてんがい 猪脂ちんあぶら 蓋まが

右湯みぎゆ煮によよ一ひと膏こう茶ちやよよて付つべへ

○腋臭わきのくさけををぬぬるる法ほう

一ひと右みぎのの茶ちや方かたの内うち膽たん禁じんをを去ぞ粉こなよよ一ひと腋わきの下のをを搽おし
よよてぬぬじじ液えきよよてつつよくよく拭ぬぐハハ其その液えきへへ唾つよををううすすく
付つけ。右みぎのの茶ちやととすり付つ暫しばしば腋わきの下のをを肘ひじよよて一ひとうう
じじしてして立たち処どころよよ臭くさややじじへ。他ほか一ひと右みぎのの茶ちやのの汁じゅう也なり

○同

一ひと麝香じやくかう 川かわ朱しゆ 龍りゆう糞ふん 塩しほ 下したヲヲ

巴豆はとう 二分にぶ 綿わた砂すなヲヲ

小豆の汁よてときと布よて包腕下よてこびへし。黄なる汁かば茶をあらよて洗へべし。

○同

一密陀僧 四五 白麩 三五 浮石 申分

各粉よし腕下よてよく洗ひ拭へては茶をぬるへし。半月よて治す

○同

一胡粉 七味 すぎ膠よあせ牛の油よて煉腕下の毛を剃て付へし。須臾よして腕下より

黄なる汁流あると拭ひ去べし。廁へり日大便悪く瘡のごとくあるべし。若し他人廁を同うすれば必ず傳染なり。廁を別よすべし。数日の後墨を腕の下よ塗ハ毛の孔んやなり。毎日其毛の孔よ三四火やど灸と七日すべし。病の根と勢治するなり

○草鞋喰の茶

一草鞋を粉よし付へし。まめあまころよもよし

脇痛

肝ハ血をたの脇はたけハ痛をたす
肺ハ氣をたの脇は鬱ハ痛をたす
肝肺の二臓をたけて作す

○脇類は痛屈伸なり切さきを作す

一 香収散

陳皮

芍薬

干姜

木香

白朮

甘草

右細末一塩湯よて切て用

○黄痘の茶

一 雞卵を川殼ともは黒焼よ一酢を合

て温め服す鼻中より虫出て瘡

○小兒黄痘茶

一 薑朮の薑焙り刻き水盞よ一をい

入七分は葱ト度さまよ用由取めまへよ

黄なり相凉て瘡

○黄痘の茶

一 遍身金色乃如く黄なりは甜瓜蒂四十

九と六月ニ取丁子四十九と合せ俵さ鍋よ

て烟の立止まて焼て細末一。大人よハ一匙

小人よハ半匙鼻の内よ夜ニ吹込たらしめ忽たちまち愈おさ

加の効

○髪うけの白しろと黒くろくすり茶

一還けん少せう膏かう

大倍たいはい子こ 炒ま黒くろ

洞あな屑くず

白しろ礬たん

各それぞれ五分ごぶん

塩しほ 二分にぶん

右好よき煎せん茶ちやよて固かたとな湯ゆ煮ぢよして其内うちへ

燒酒せうしゆ少せう斗と入い皂角そうかくの煮せん汁じゆよて髪うけを洗あひ。

其後そのち茶ちやをゆり須すよて髪うけと下した衣い裏うらを洗あひ。

其のどとく皂角そうかくの煮せん汁じゆよて徐せう洗せんひ

ゆり。必かならず三夜さんやかどすり休やすれバ白しろ髪うけ黒くろかなり

○髪うけ白しろくならしむる茶

一人参いちじん 白しろ朮じゆ 白しろ朮じゆ 黄わう耆き目め 乾かん薑きやう 乾かん薑きやう 白しろ朮じゆ

肉桂にくけい 五ご朮じゆ 五ご朮じゆ 柏はく朮じゆ 三さん分ぶん 黑くろ明めい麻ま

兔う絲し子こ 計けい分ぶん

右細さい末まつ一いち蜜みつ十じゆ六ろく分ぶんよて煉ねり茶ちやとす 其その和わ

氣き付つけ氣き力りきを補おほふ。又また我われ髪うけの落おちを去とる 山さん椒じやう

又また十じゆ粒りやく入い煎せん一いち酒しゆよて飲のむ黒くろく水みづなり

○髪うみの落おちきりぬす又また禿かぶらるるる付つ茶ちや

一いち初はつ生せい髪かみ 輕けい粉ふん 松しょう脂じ 龍りゅう膏こう 臍せき帶たい

右みぎ粉こなよし一いち胡こ麻ま油あぶらよし付つべい

○髪うみぬけ槁かうてて澤たくわいふきと治す

一いち桑そう白はく皮ひ 側たがひ柏はく葉あは 等ら分ぶんよし煎せんトト体たいよしべい

一いち即すなはちぬけやまてて潤うるひあるなり

○髪うみのの生せいるる油あぶらのの方かた

一いち秦しん椒かしょう 白はく芷し

蔓まん荊けい子し 零れい陵りやう香かう 附つ子し 各かく計けい

右みぎ生せいよしてて細こくく刻きやく箱はこよし包つつここ白はく志しがり

よし在ありる一いち日にち浸ひしし一いち日にちよし三さん夜やつつ禿かぶらるるる

付つべい。ハハ油あぶら髪うみななききぬす付つむむ毛けととゆゆりなり

介けへへつつるるぬぬややううよよすすべい

○髪うみとともも一いち光くわ澤たくわいととよよくくすするる法ほう

一いち菘しゆ菜さい子しのの油あぶらととぬぬききハハととくく光くわ澤たくわいよよくく也や

○髪うみのの色いろあありりききとと治ちす

一いち桐きり木のきととせんぜんでで洗せんふふべい。一いち日にち光くわ澤たくわいとと出です。

○頭かぶりのの疔ぢり痕あしよよ毛けとと生せいすす茶ちや

一 栝桐子の灰とぬるべし

○ 顔かど実腫ふりよ茶

一 氣様の糸と揉蔽茶葉かけテの粘ませ付し

○ 顔面よ腫おて癩の付うろと治す

一 刀豆と研碎きて其汁と付し 忽愈るす妙也

○ 膈噎の妙茶

一 臭木を砕き水き拵入き合よ茶しつり

馬錢 粉よし 安息香 木香

右煉茶よし一日よ三たびし ● 毛やどよし

○ 同

一 漆 良香 極上茶 名茶

細末し 毛かどよ茶し 用也

○ 同 秘傳名方

一 虎尾 へんねれすも 巴且杏 二ツくごきよ

氷砂糖 水分 耳茶 水分 生薬 二片

右つものごとく 煎し 用

○ 膈の養生茶

一 苦葱實 かりして 鯉魚白子 かりして 名茶

右粉より用由べし

○同方

一 靈天蓋れい せん がい やき 白湯しろゆよて用由

○同方

一 梭尾螺せいのい と半分を焼よし 挽茶ひきちや一服やど

づ 白湯よて用よし

○百瘡ひゃくそう 糸いとくさよもよし

一 雲脂うんじ き合 胡广他こまのあ 白粉しろこな 三ト

右火をぬるくこして煉 後よいほうき

粉よして入たる能のどくわり 馬うまの糞くそ

引へし

○瘡毒菜そうどくさい

瘡毒 楊梅瘡 天疱瘡
按揚梅瘡ノ類初起ニ表裏ノ毒ヲ通解スベシ凡石薬
寒冷ノ滓劑 嗅藥等護ニ用ユベカラス毒氣ノ淺深
其人ノ虚實ヲ酌考ヘ診テ方劑ヲ與フベシ

一 川芎せんきう 香附子かうぶし 葛根かくこん 獨活どくわく 名大

木香もくかう 中 藿香くわかう 冬ふゆ中 縮砂しゆくさ 中 荊芥けいがい 中

黄芩わうじん 沉香せんかう 茯苓ふくろう 檳榔子べいろうし

山梔子さんし 連翹れんせう 茵陈いんちん 其草そのくさ 名小

二数よ一盃入く半分よ煎ド用也

水よいやく山席菜一介と七川よ分其煎汁

よて右の茶を煎ド用也

○反花瘰癧

一丁子 胡椒 大黃 瑞砂

取菖 虎骨 人参 巴豆

山椒の火さよ丸一日よ六十粒用也

○瘰癧の茶

一 大黃 黃連 黃芩 甘草 耳茶

杜仲 地黃 山椒菜 百朮

但虫乳あよハ白朮 茯苓 栝椰子 加

右刻合大川よ分六日よ用也煮法。き番よ

水と茶碗よ二まい。或数よ二まい半。三数よ

二まい。四数よ二まい。又番よ三まい入。何きも

きよいよせん 用也 一々の茶とひなせんずり

○平星流瘰癧

一 黃蘗 生きて つるんこへ 樗木の根皮

百草毒 枳粉



古粉はし●是かどようす糊まで丸ト吉野葛
 の粉と衣よかけ一夜は十粒つ一日は二夜づく
 用也。但し香汁をよ持て口中は少しもぬく
 ざりやうはぬく香汁嚙割はぬ。一七日用ひ
 いまご愈ざり時ハ二七日も用べし。も是痛三
 乾居不自由は骨節痛多の久き瘡よも
 用て妙なり。但し薬を用る四六日ハ口中痛延多
 くある人もあべし。若し次。寝て月いざる人後
 痛とろくして薬を用べし。一七日用つくと痛出

体也。又二七日用べし。右丸薬の香汁ハ
 薬を介細刻三七川よ分。其を分一敷よ
 水天目よ二盃入をいよ煮ず二敷よ二をい入
 をいよせん。二敷よ二盃入を盃よ煮し
 盃分よ三盃まで煮るなり是よて一七日ハ二七日
 用べし。必平愈するなり。此薬用て後一七日本
 八日目より。又一廻り根ぎりの薬を用。根ぎ
 りの薬ハ内粉粉と除き葛粉よか加へ衣よ
 も葛粉と掛て用也。右二色衣よ香汁なり。右後

セバ其時蕎麥稻と刻之麩の煎茶一貼
づきのどくとい。其煎汁よて山椒六十粒 祿
づ二夜用也。是よて腹中滞る粒粉と
らり下すなり。右の茶何も吞後十二日の
内禁地 酒 茶 索麩 酢 蓼 冷汁

薬月る内好也

于大根 牛蒡 高苴 鯉 鱈 鱧

も不て食食禁忌肝病なりは茶等

とハ下代食すべし次

按此方察病人

○煮問茶 上戸は用也右方

一文黄 川芎 黄芩 川芎 粉よ

右古酒よて移は煉茶碗よ入火の上よ煎沸

立て鉄拌合本薬子二川祿づ。一日よ三四夜

も酒よて用也。又日も六日も用て小便濁血の

色よかつるハ茶ね煎すとん均かぎ茶と用也

○同 下は用也右方

一粒粉よて焼也 寒晒末粉二十日



右丸茶より白湯よて用へし右此同茶丸
よ用ひ其後かさ茶を用るなり。但豆瘡の
附ハかぎ茶を用なり右二色の同茶をくりよ
てよし但不愈附ハかぎ茶を用也べし

○同製茶

一沉香	七分	朱	七分
と用也		本乃伊	七分
大人参	五分	丁香	五分
		枳壳	五分
百草	二十目		二分

右を正一かよして一日よ三かづ七目製茶をいひ

茶とかく肉塩の乾堅也。輕きよ一日よ一かづ
早天よ嗅せてよし。右の茶嗅内よ口中痛し
此ハ四物湯よ人参と加へ用べし。茶碗よあを
入側よ食ひしそ色の漱をすべし

○瘡の嗅茶

一鹿射香 人参 沉香 辰砂 湯 松 茶
右口よあを合煙おひをして穴と心油大
よて嗅べ但し茶のみを二度よかくなり。此茶
及花瘡 穴瘡 便毒 小瘡 魚瘡 等よよし

○ 藥後骨疼此妙藥

一 養命散

人參 其まじ

大黃 其まじ

川芎 其まじ

杜仲 其まじ

黃連 其まじ

桔梗 其まじ

香白芷 其まじ

沉香 其まじ

木香 其まじ

芍藥 其まじ

荜薢 其まじ

耳茶 其まじ

山椒 其まじ

山椒末と赤土つゝかけ其外を味く

一包よかけ右赤土と積りけて川芎と服す

六分つ入此包よすべし

右の薬煮しやう

一番ハ多天目一盞二分入く一盞よ煮し

二番ハ多天目一盞一分入く一盞よ煮し

三番ハ多天目一盞五分入く一盞よ煮し

四番ハ多天目一盞入く一盞よ煮し

五番ハ多天目一盞五分入く一盞よ煮し

○ 固骨うつき此藥

一 荜薢

大黃

黃芩

黃連

川芎 山梔子 くらやき

巻 五 燒 各 湯 加

せん 一 日 四 一

啖 加 減 ハ

丁子 沉香 木香 黄耆 香白芷 使君子

右 一 日 一 熱 此 湯 引 湯 二 日 一 加 減 す べ 一

○ 楊 柳 齋 此 茶

山 椒 湯

大 黄 芍 藥 黄 芩 川 芎 蘇 木 煎 湯 煮 湯 煮 湯

地 黄 酒 浸 杜 仲 木 杏 木 皮 蘇 木 煎 湯 煮 湯

連 翹 枳 椇 子 茯 苓 苧 茶 各 湯 煮 湯

山 椒 末 耳 茶 各 湯 煮 湯

右 各 藥 茶 の 時 ハ 一 日 一 貼 二 日 一 貼 三 日 一 貼 用

○ 同

一 河 骨 各 湯 煮 湯

耳 茶 各 湯 煮 湯

田 螺 肉 各 湯 煮 湯

浮 萍 各 湯 煮 湯

山 梔 子 各 湯 煮 湯

白 粉 各 湯 煮 湯

右 湯 一 日 一 用 由 べ 一

○ 同 洗 茶

一 蓮葉

患毒 二色を煮し
洗ふべし

○同付茶

一 虎皮 黒焼

蛇蕪 黒焼 紫ふも

右明麻の油よて付べし

○楊梅瘡 患瘡付茶

一 膽礬

馬賊骨 荊芥 黒焼

右各粉よし 膏粘よてのべ 髪油とかけし ぬり

ては茶を付べし。胆礬 志まらずし 奇効瘡

○同 加減 秘密丸

白粉 八分

白粉 五分

小豆 十分 白茶

大冬茶 八分

河骨 五分

其茶 五分

右細末し 七七日よ用

大豆瘡

便毒

尻瘡

氣腫

癰 赤

骨疼

等万ニよし

引虫氣あつた 良香 少し 加ふ 香汁を湯

よても 酒よても 用 大豆瘡よも 蜜よて

わり用也

右の茶よては 痛む事あり 其付此茶

一桑寄生 本香 連翹 沉香

升麻 黃芪 木通 射干

獨活 丁子 乳香 地黃

麝香 甘草

右何れも細末一六日此より一日よ三夜つ熱

湯よてすり立用也べし。六日七日此よりよし

○骨うづき盜汗なき人よ此方を用じ

一人参順血湯

廉角 黒焼 石榴皮 杏仁
十石 十石 十石

右細末一立一包となし。山椒葉を斤と三ツよ

まけを分ハ其まき。を分ハ黄を炒。を分ハ集

を炒。はを色と拌合て七川よ分。一日よ一貼づ

煮し。其汁よて右此粉茶と一包つ一日よ三夜

つ七日よ用也べし

○何瘡よてもくすりくますり附捻かすり茶

一阿仙茶 桂心 川骨 黒焼 黃柏 杏仁

細末一分べし

○楊梅瘡大豆瘡炒茶

一田螺にぶし十三 柚ゆ赤きと 二味黒焼くろやきよし一入

粉こなよし 白粉茶しろこな入服いりくわくかと火ひよして焙あぶり加へ

糊かよて。是かとは丸まる一日いちにちよ六十粒ろくじゅうりゅう或ある廿粒にじゅうりゅうツ

白湯しろゆよて用

○楊梅瘡たうがさ下疳瘡げかんさうの餘毒よどくよ入いれ驗けんある方

一南婦なんぶ川芎せんきう芍薬せきやく 白朮びやく 茯苓ふくろう

防風ぼうふう 地骨皮ちこつひ 牛膝ぎゅうせき 薏苡仁いよいよん 白朮びやく 茯苓ふくろう 九味

土茯苓どふくろう 倍ばいして入いれ考かうより大服だいふくよして用

○同

一土茯苓どふくろう 百三拾目ひゃくさんじゅうもく 土竜どりゅう 地黄じゆじやう 黄連わうれん 沙さ

大黃だいわう 赤せき 黄芩わうこん 芍せき 藥やく 沙さ

右みぎつものしくしく煎せんド月げつ 骨疼こつうき多おほくむ妙めう也

右みぎ一劑さい十日じゅうにちよ月げつあり右みぎ方かた病やまいよとがめめころとも

くるしうくろしう決くわつままのく月げつベべ

○瘡疥さうせう茶ちや 世よ一いち裏うらへ入いれざざららららは世よト

一蛔虫かいちゆうのの黒焼くろやきカカ 虎皮こひ 毛もうもももよ

八倍子はつばいし 辰砂てんさ 唐行たうかう此こゝ虫むし糞ふん

右みぎ四味しむいハ考かうかなかななり 虫むしのの黒焼くろやきハハカカ

○瘡よて龍耳よ水うろを治す

一鯉魚三年よ紅花へこのなを腹はら一まい入いれ黒くろ燒やき

よして粉こなとあし是と七なな貼くよして一日よ一貼くつ酒よ

て七日用。但飲のこ汁あじの介ハ酒さけを相あべうく次つぎを毒どく

○鴈瘡がんがさ此茶こ 弟あにを治なするまじ

一阿仙茶あせん 輕粉けいこな 云々

右細末こま一まい胡麻油こまのあぶらよて煉あ付けべいきとめて驗あり

○脚氣けつき凡毒腫たひよよ

一加味かみ松蘇散しょうそさん

香附子かうぶし 紫蘇しそ 枳椇子しちきし 木瓜もくか 陳皮ちんぴ

牛膝ぎよく 杜仲とちゆう 羌活きやうかつ 車前しぜん

右せんせん一まいやうようつつののここ

○脚氣散けつきさん かつけの茶

一まい松蘇しょうそ 粉こな一まい碎す酒さけ等らよして煉あ

是れ痛いたふふ付けべ

○脚氣貼茶けつきていさ うづくよよ

一 鬱金丹 梅子の破りてのへて付べし

○同

一 無名異と細末し膠よてねり痛處よ貼べし又脚氣腫うりよ杉木或ハ節ともよ煎し汁よ痛腫うり処を浸す効あり

○同

一 莖草 芥 車前子 地菘 各等分

陰干しし黒焼となし痛雨乃よようす糊よて付喰裂紙とろこよすべし

○脚氣内茶 くらりハ傷をれとくうらみ

一 羌活 独活 桑寄生 防己 大黃 四等分

根實をまじつ子のこく煎し服す

○同腫痛よハ右の方よ

一 木瓜 栝櫚と加し熱多よハ敷毒散と用冷うり症よハみ積散と用也

○蚊のくひうりよ茶

一 蚊野のせちうり土と唾よて付べし小兒の蚊咬の咬うりと其後をハなめぐよみなり

○ 秘傳 吸遣丸

一本 鯨魚子 川芎 各十五 雄黃 各五 末と一

蜜よて丸一 一粒づ焼へ 吸盡く去 又一切

此蟲と去よ用べ

○ 神仙膏

一切の瘡惡肉をて 瘡難きよ付 魚肉と拂ひ愈

一 漆油 三寸 巴豆 七枚 胡椒 各五

杏仁 各五 柳皮 四十斤をこすよ加 入熱つり柳とすり煉つめ

油と一川よして右の粉菜を入煉 冷るべ

天目よあをへて一夜 冷す

○ 寒を凌良方

一 雞卵 十五 酒よてよく煉 乾姜 肉桂 各五

丁子 各五 防風 各五 羌活 各五 桂心 各五

独活 各五 桔梗 各五

右各細末して蜜よて煉 茶を月る多かハ

寒氣よよるへ 是と服すれば寒く次。又

暑氣とも拂ふ也。雞卵 乾姜 各五 粉は

酒よて煉月由べ

○ 寒氣を辟方

一雄黃 赤石脂 丹砂 乾姜
 松香 各等分 細末 胡椒の大きき丸
 十粒 酒にて毎日服すべし。十日後効
 あり。冬月寒きことあり。赤身よても木の
 肉とりへしと云ふ。 萬病必愈
 見タリ

儒書曆書品目

定榮堂

吉文字屋市兵衛

古文孝經

孔安國註

改正訓点

全四書集註

小本道春点 全五册 并薄用懐中本出来

孝經大義

改正好本此奥昏入候ヲ御改御求可被成候

孝經大義詳解

全四册

陳明卿史記考

全五册

自觀政要頭書

十册

助語辭國字解

穂積伊助撰

春秋列國圖

戰國ノ時ノ國名ノ替リホラ委ク記ス

日本書籍考

古代ヨリノ神皇國中実録詩文故事有職ノ書スベテ真偽ヲ糾シ大意ヲ記ス此書ヲ見テ凡和學ノ大成ヲ知リ諸君ヲ見ル甚明也和春ヲ好者必讀ベキノ書ナリ

經典題說

羅山先生著 五經十三經等ノ大意ヲ詳ニ記ス 二書合本一册

大成正字通

全壹册

正運記畧

折本 全

和漢年表錄

寸珍

年中風俗考

年中ノ故事 年曆ヲ記ス 二册

